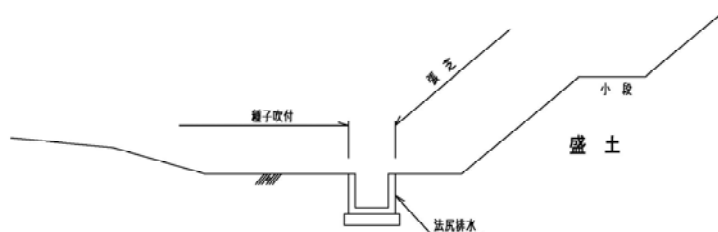
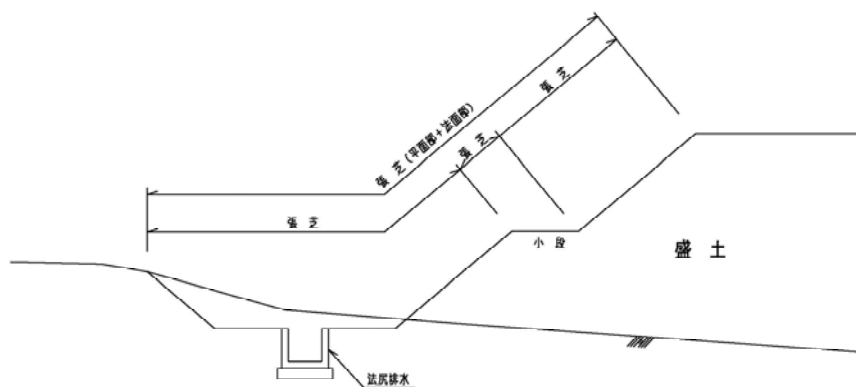


4章 法面工

法面工の数量算出は、「第1編共通編4章法覆工」によることを標準とするが、以下の数量算出については本章を適用する。

4.1 張芝

- (1) 張芝は、盛土法面への使用を標準とする。
- (2) 張芝の数量は法面部、平面部を合算して算出する。



種 別	単 位	数 量
生 芝	m ²	
人 工 芝	m ²	

※側溝より民地側の平坦部の緑化は、特に理由のある場合を除き種子吹付工を標準とする。

4. 2 現場吹付法枠工 (ユニット式フレーム)

現場吹付法枠工 (ユニット式フレーム) の数量算出項目及び区分は下表による。

名 称		規 格	単 位	備 考
吹付法枠				
グラウンドアンカー・ ロックボルト		D = ℓ =	本 (t)	必要に応じてアンカー工、鉄筋挿入 工により計上
ラ ス 張		法面清掃含む	m ²	法枠部分を含む全面積を対象
水切モルタル・コンクリート			m ³	必要に応じて計上
表面コテ仕上げ			m ²	必要に応じて計上
枠内	植生基材吹付	吹付厚 c m	m ²	法枠部分を除く枠内の面積を対象
植生	枠内中詰工	植生土のう	袋	材料費+製作費+設置費

(注) 1. 吹付法枠は、法面垂直高さ45mで数量を区分する。

(45mを超える場合、または吹付ホース延長が100mを超える場合は特別調査)

2. 植生基材吹付工は、法面垂直高さ45mで数量を区分する。(80mを超える場合は特別調査)

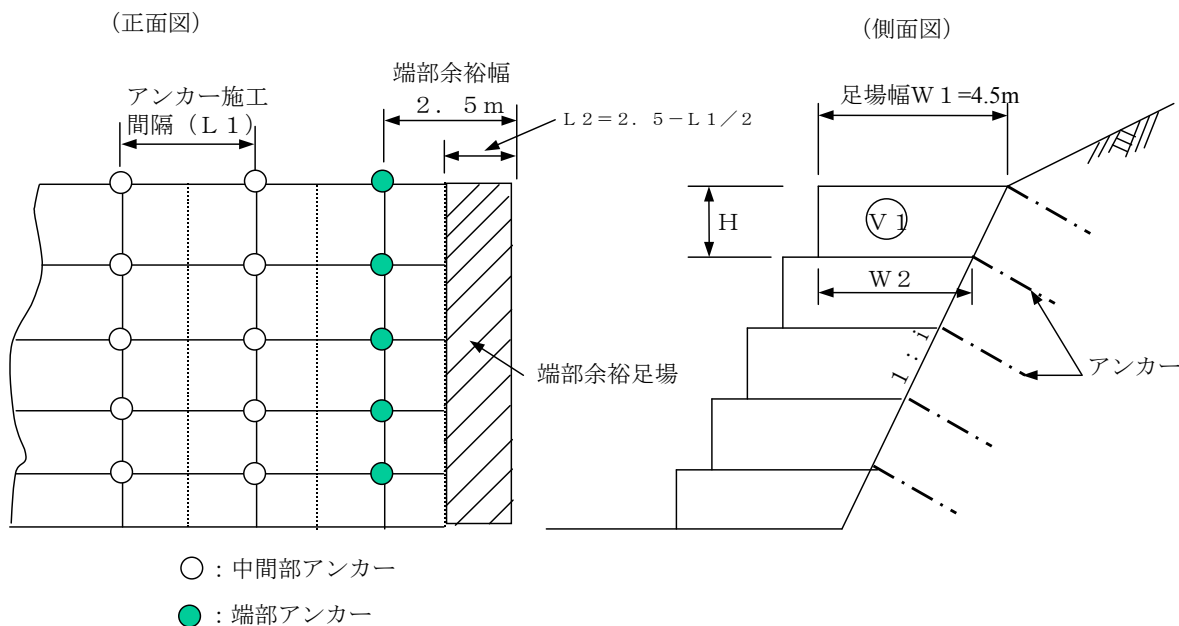
4. 3 アンカー工足場

ロータリーパーカッション式ボーリングマシンの足場を設置してアンカー工を施工する場合の足場数量は下記を標準とする。

- 1) 足場幅は4.5mを標準とする。
- 2) アンカー施工端部の足場の余裕幅は2.5mを標準とする。
- 3) 足場数量の単位は空m³とする。
- 4) 足場数量は階段形状で算出する。
- 5) 法面勾配が一定でない場合は、平均勾配で算出する。

【計算例】

一法尻部から足場を設置する場合一



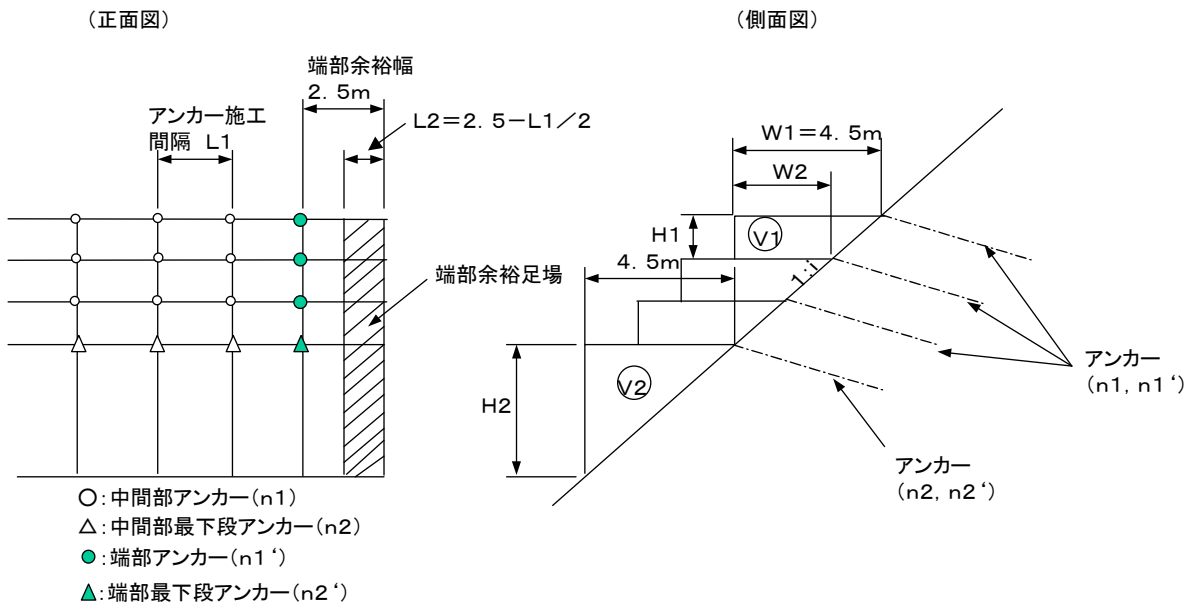
$$V = v_1 \times n + v_1' \times n'$$

$$v_1 = (4.5 + W_2) \times 1 / 2 \times H \times L_1$$

$$v_1' = (4.5 + W_2) \times 1 / 2 \times H \times L_2$$

V : アンカー工足場数量 (空m³)
 v_1 : 中間部アンカー1本当り足場数量 (空m³/本)
 v_1' : 端部アンカー1本当り足場数量 (空m³/本)
 n : アンカー全本数 (中間部+端部)
 n' : 端部アンカー本数
 W_2 : 足場下端の足場幅
 H : 足場1段当りの高さ
 L_1 : アンカー施工間隔
 L_2 : 端部アンカー余裕幅

一法面中段から足場を設置する場合一



$$V = v_1 \times n_1 + v_2 \times n_2 + v_1' \times n_1' + v_2' \times n_2'$$

$$v_1 = (4.5 + W_2) \times 1 / 2 \times H_1 \times L_1$$

$$v_2 = 4.5 \times H_2 \times 1 / 2 \times L_1$$

$$v_1' = (4.5 + W_2) \times 1 / 2 \times H_1 \times L_2$$

$$v_2' = 4.5 \times H_2 \times 1 / 2 \times L_2$$

V : アンカー工足場数量 (空m³)
 v_1, v_2 : 中間部アンカー1本当り足場数量 (空m³/本)
 v_1', v_2' : 端部アンカー1本当り足場数量 (空m³/本)
 n_1, n_2 : アンカー全本数 (中間部+端部)
 n_1', n_2' : 端部アンカー本数
 W_2 : 足場下端の足場幅
 H_1, H_2 : 足場の高さ
 L_1 : アンカー施工間隔
 L_2 : 端部アンカー余裕幅

4. 4 落石防止金網

落石防止金網の数量は、下記のとおりとする。

	名 称	単 位	規 格	数 量	摘 要
落石金網	金網・ロープ設置	m ²	線径、材質		
主アンカー	ケミカルアンカー	箇所	径、長さ		岩
	パイプアンカー	箇所	径、長さ		土砂・風化岩
支柱	ポケット式支柱	箇所	支柱高さ		岩盤用
	ポケット式支柱	箇所	支柱高さ		土中用

- (注) 1. 資材持ち上げ直高45m で数量を区分する。(45m を超える場合は特別調査)
 2. アンカーに上記以外を使用する場合は別途考慮すること。
 3. 簡易ケーブルクレーンで資材を持ち上げる必要がある場合は、設置・撤去に要する費用を別途計上する。

4. 5 グラウンドアンカー工

グラウンドアンカーのグラウト材の注入量は次式を標準とする。
 ただし、次式により難しい場合は別途考慮する。

$$V = \frac{D^2 \times \pi}{4 \times 10^6} \times L \times (1 + K)$$

V : 注入量 (m³)

D : ドリルパイプ外径 (mm)

L : 削孔長 (m)

K : 割増し率 2. 2